

寺院紹介

西教寺(春日町)

当山では毎月十六日十四時より法座を開いています。近年新しい住宅が増えてきました。が、面識のない方も気楽にお聴聞に来られ、そのうち初対面の方々もだんだん打ち解けてきて、お互いになごやかに話がはずむ場面もみられます。狭い境内ですが冬は赤い寒椿、春は黄色のサンシユ、夏は白いさるすべり秋はもみじの紅葉と木の花の季節の彩りを楽しんでおられます。

「お寺はほっとできる場でありたい」というのが住職の願いです。



各寺報恩講日程

日程	曜	寺院名	地区	時程	ご講師
9/23	土	西教寺	春日町	14時,19時	堀川憲慧 師
9/24	日	西教寺	春日町	9時半	堀川憲慧 師
9/30	土	西教寺	萩之庄	10時,14時	植木政隆 師
10/28	土	圓正寺	道鶴町	14時,19時	未定
10/29	日	圓正寺	道鶴町	10時,14時	未定
11/4	土	圓成寺	京口	14時	藤 正史 師
11/4	土	久宝寺	大手町	14時,17時	未定
11/5	日	久宝寺	大手町	10時	未定
11/5	日	西法寺	東天川	10時,14時	未定
11/11	土	西法寺	梶原	14時,19時	鳥羽正和 師
11/11	土	普賢寺	須賀町	10時半,14時	藤 正史 師
11/18	土	西應寺	大塚	14時,19時	熊谷正明 師
11/19	日	西應寺	大塚	14時	熊谷正明 師
11/19	日	尊重寺	冠	10時半,14時	高澤正文 師
11/25	土	法善寺	西冠	10時,14時	宮部誓雅 師
11/25	土	安楽寺	辻子	14時,19時	未定
11/26	日	安楽寺	辻子	10時,14時	未定
12/2	土	正覚寺	野田	14時,19時	藤田哲史 師
12/3	日	正覚寺	野田	10時,14時	藤田哲史 師
12/9	土	一念寺	下田部	10時,14時	寺本正尚 師
12/9	土	西證寺	大塚	14時,19時	未定
12/10	日	西證寺	大塚	14時	未定
12/16	土	善立寺	大塚	14時	出口湛龍 師
12/17	日	善立寺	大塚	14時	出口湛龍 師

島上南組 だより

組長ごあいさつ

浄土真宗本願寺派
2017(平成29)年7月
第6号
編集・発行
高槻市大塚町西證寺内
島上南組実践運動委員会

島上南組組長 尾崎貞良



空の青さが夏らしい輝きを増してま
いりました。七月を迎えることが出来、
今年も半分が過ぎました。

この半年を振り返れば、いろいろあつ
たけれど過ぎてしまえばあつという間。
先を思えば長い様でも、過ぎて振り返れ
ばあつという間。あの時、ああしておけ
ば良かったとあれこれ後悔と反省ばか
り。

「人間は後悔をする動物、言い訳をする
動物である」と言われます。理由を付けて言い訳をし、自分に言い
聞かせ、時には嘘をつき、嘘を隠す為にまた嘘をつく。

汚泥の花

西教寺(春日町) 堀川憲慧

高原陸地不生蓮花 卑湿淤渥乃生蓮花

高原の陸地には蓮を生ぜず、卑湿の淤渥にすなわち蓮花を生ず

天親菩薩の『往生論』には、菩薩の功徳を観察する四種の功徳が説かれて
かれています。

その一つに、「身は浄土にあつて、動かずして十方に至る」と云う徳
があり、その中に「諸の衆生の淤泥華を開く」と述べられているその文
を、曇鸞大師は『往生論註』巻下に、「淤泥華」を註釈されて、「『維摩
経』に、「高原の陸地には蓮華を生ぜず、卑湿の汚泥にすなわち蓮華を
生ず」とのたまへり。これは凡夫、煩惱の泥のなかにありて、菩薩のた
めに開導せられて、よく仏の正覚の華を生ずるに喩う」と述べています。
釈尊が説かれた教えは、「仏の教え」であり「仏になる教え」でありま
す。経・律・論を拠として真理を学び、戒律・禪定・智慧の三学を修
行して迷いを転じて覚りを開き、煩惱を断つて涅槃に至らうとする教
えなのです。

しかしながら現今の社会風潮を見れば、日の善し悪しを選び、方角
の善し悪しを云い、天の神・地の神を敬い、占いや祭司をたのみとし
て、現世の禍福を祈って御札を貼り、護符をまつて神仏の加護を祈
るのが一般であります。これらの迷信に沈んで人生を誤る人が多いよ
うです。
仏の教えは、この世で聖者となつて覚りを開く道と、阿弥陀仏の願
力によつて浄土で成仏する道とがあり、前者を聖道門、後者を浄土門
といいます。親鸞聖人は二十九歳の時に雑行・自力聖道門を捨てて本
願・他力浄土門に帰入されたのです。それは此の世で覚りを開くには
あまりにも我が身は拙く、生死の苦界を流転し続けて永久にこの苦界
を脱けだし得ない自己に氣づかれたからです。
蓮は高原の様な堅固で立派な土地には生じないが、湿った泥の中で
こそ美しい華を咲かすように、阿弥陀如来のご本願の名号の種は、煩
悩まじりの凡夫の心にこそ美しい念仏の華を咲かせるのです。



いくら誤魔化そうとも、時は止まることなく戻ること出来ず
さきへ先へ。終わる方向へ。生きることばかりに目を奪われ、一生
懸命生きて終わるような、ただ死を待つばかり、
悲しい滅びに向かつて生きることしかできない一度の人生はむなし
い。いくら家族に恵まれ、金や物に不自由なく生きようとも、いず
れ全てを残して別れ行く。

その限りある人生に生きる意味と目的地を教える「南無阿弥陀仏」。
「南無」とは「帰命」帰順教命、「阿弥陀仏」とは無量光(限りない光)、
無量寿(限りない寿命)。光の働きは「照らす」と育てること。
限りない光で氣付かせ、導き、限りない寿命を与え、悟りの浄土へ
摂め取って捨てはしない。
もう既に、み仏の救いの胸に抱かれてある安心の中、「なんまんだぶ」と
生き抜かせて頂きたいと思えます。

合掌

「人生は

やり直しはきかないが

見直すことが出来る。」

総代会より

総代会会長 玉村圭二

三月三十一日(金)に島上南組一日研修会が行われました。島上南組十六ヶ寺の一〇七名で姫路市亀山にある、「亀山御坊 本徳寺」を参拝しました。

本徳寺は播磨の浄土真宗布教の拠点として栄えたこと、現在の本堂は西本願寺の北集会所を譲り受け移築されたものなど、寺の歴史について住職より伺いました。

その後「揖保乃糸 そうめんのに里」で昼食、途中「道の駅みき」に立ち寄り三木の特産品である金物展示品などを見学して帰路にきました。



揚風会より

尊重寺 諸橋 匠

去る、六月十七日(土)、高槻現代劇場にて、揚風会主催の「第三十回 仏教講演会」が開催されました。

今年は、浄土真宗本願寺派長久寺住職の有国智光先生を招き、「いのちを真にうける」という講題で、約二時間お話をさせていただきました。

揚風会では、毎年六月頃に仏教講演会を開催しています。「今回も来て良かったよ!」「今年の先生の話はちよつと難しいかったなあ。」「毎年楽しみにしてるから続けてね。」との声をいただき、今回で三十回目を迎えました。

今後より良い講演会を開催できるよう活動していきたいと思えます。



仏教婦人会より

仏教婦人会 副会長 溝口 紀代子

島上南組仏教婦人会結成五十周年並びに若婦人部結成十周年記念大会を、無事終えることが出来ましたこと大変うれしく思います。「想いをつないで今ここに」をテーマに掲げ法要に始まり式典には仏教婦人会会長、若婦人部部長の挨拶に続きご臨席頂きましたご来賓の方々のご祝辞を頂戴致しました。フルート演奏や島上南組仏教婦人会の五十年のあゆみを始めとして大会に向けての活動を、スライドにてご覧頂きました。

記念講演は、行信教校講師、中西昌弘師に「本願のこころ」という講題で、心に残るお話をして頂きました。

昨年十月頃よりハンドベル及び銭太鼓、花笠音頭と練習を重ね、若さ溢れる若婦人会員の皆様と共に、坊守様の歌で踊る花笠音頭は楽しんで頂けましたでしょうか。コーラスでは尾崎坊守様の指導のもと六十曲近い歌を練習し本番でも歌い切りました。ピアノの畑中様にも大変ご苦勞頂き有難うございました。又、会員の皆様から帯、着物を提供して頂き記念品の経本入れを、吉田様の指導のもと六百余り作成しましたこと、これもひとえに会員様のお力添えのお陰と感謝致します。この大会を通して仏教婦人会の活動が次世代に繋がっていく事を、念じながら島上南組仏教婦人会の発展に努めていきたいと思えます。最後になりましたが、この大会にご尽力頂きました皆様様に感謝申し上げます。有難うございました。

音楽法要



元仏婦会長
段野嘉代子様



仏婦会長
辻井順子様



大阪教区教務所長
熊谷正明師



若婦部長
土井真由美



大阪教区仏婦連盟委員長
石原由貴子様



記念講演講師
中西昌弘師



コーラスI部



ハンドベル



銭太鼓



花笠音頭



コーラスII部



フルート演奏
中川由紀子

